（ 続紙 1 ）

京都大学	博士（工学）	氏名	吉野　和泰
論文題目	合意形成プロセスからみたヴィジョン駆動型都市空間再編の方法に関する研究		

（論文内容の要旨）

本論文は，海外の先駆的な都市空間再編事業を対象に，計画の合意形成と実現の過程を詳細に分析し，デザイン発想での提案や計画，合意形成を導くためのプロセス・デザインの要点を明らかにした．様々な制約や条件に縛られない自由な発想に基づく目標像（ヴィジョン）が多主体の参加や協働の原動力となること，ヴィジョンから逆算的に検討を進めるバックキャスティング・アプローチが，空間の場所性を高めるような計画調整の要となることを明らかにした．本論文は７章構成となっており，各章の内容および成果は以下の通りである．

第１章は序論であり，本研究の背景と目的，手法，位置づけを示した．

第２章では，道路空間再編に特有の問題構造である，計画・設計に関する検討条件のトレードオフ関係を整理した．そのうえで，ウィーン市・マリアヒルファー通りのシェアードスペース導入事例を対象として，トレードオフの調整と合意形成の過程を分析した．本事例の特徴として，空間再編の計画手法として充実した市民参加や長期の社会実験を実施し，道路の利活用イメージと空間の目標像を具体化し，空間体験を通じた計画案の質的評価を行ったことで，場所性を高めるような順応的な計画調整が可能になったことを明らかにした．

第３章では，ブリュッセル市・アンスパッハ通りの祝祭広場化の事例を対象として，有志の市民や市民活動団体を中心に行政・設計担当者らとの共同により作成された，広場化の目標像の形成とその実現過程を分析した．本事例の特徴として，行政による再整備計画の策定に先立つ最初期の段階において，利活用の方法や計画・設計に関する制約条件のない，自由で柔軟な目標像を検討する機会を設けたことで，道路に新しい価値を与えるような大胆な計画の策定と実現が可能となったことを明らかにした．

第４章では，オークランド市の中心市街地における複数の道路へのシェアードスペース導入事例を対象に，都市の目標像の形成とその実現過程を分析した．本事例の特徴として，市内の主要な都市プロジェクトをデザイン主導（Design-led）で推進する部署横断的な庁内チーム（ADO）の体制があり，ADO が策定した中心市街地マスタープラン内において，市内を面的に歩行者空間化する都市の目標像を視覚的に示し，市民に広く共有したことで，個々の道路での計画調整と合意形成を円滑化し，合意形成に結びついたことを明らかにした．

第５章では，フランスにおけるトラム導入と一体型の道路空間再編事例を対象として，トラムの路線選定，周辺交通計画について整理し，軌道敷設・トランジットモール化を契機とする大規模な歩行者空間・広場の実現手法を明らかにした．各都市の地形，商業立地，再開発戦略などの条件により「中心市街地の既存の都市軸を通る」，「中心市

京都大学	博士（工学）	氏名	吉野　和泰

街地に新たな都市軸を形成する」,「特殊形」の 3 つの路線タイプがあること，トラム導入のフローとして，大きく「交通再編」,「トラム路線沿道の空間再編」,「周辺の歩行者空間整備」の 3 つのフェーズに分けられることを示した．さらにトラムの導入に向けた事前協議において各地区で住民と行政，あるいは住民同士で活発に意見が交換されることで，導入計画の決定段階で，トラム周囲の歩行者空間整備や都市の目標像までもが広く共有され合意形成に結びついたことを明らかにした．

第 6 章では，近年パリ市で進められる都市空間再編プロジェクトの動向を整理し，デザイン発想でのリサーチや提案を生み出すために，企画構想最初期の段階でパリ都市計画アトリエ（APUR）が取り組む，課題・可能性調査の手法を分析した．都市計画や交通の専門家のみならず，統計，経済，社会学，地理学など幅広い専門家によるチーム，継続的に活動を行うための自治体や公共交通事業者などとのパートナーシップによる資金調達の仕組み，都市に関する多角的なデータベース・アーカイブの業務化とそれに基づく上位計画の策定や個別の空間再編事業の支援が要点となることを明らかにした．

第 7 章は結論であり，本研究で得られた成果をまとめ，今後の課題や展望について整理した．

（続紙 ２ ）

氏　名	吉野　和泰

（論文審査の結果の要旨）

本論文は，欧州・豪州における先駆的な都市空間再編事業を対象に，計画の合意形成と実現の過程を詳細に分析し 1）都市の変革を導くためのデザイン・プロセスの要点と，2）デザイン発想に基づく計画調整の手順を解明している．本論文の主な成果を以下に示す．

1）市民参加・社会実験を通じた，目標像（ヴィジョン）共創の機会の設定

海外の都市空間再編事業では，計画の初期の段階から，充実した市民参加を実施する場合が多い．有志の市民が主体となり独自にアイデアコンペ等を実施する場合もある．再編事業における市民意見や協議内容の分析により，計画案の詳細な検討に先立つ最初期の段階から公共的な対話の機会を設けることが，様々な制約に縛られない多主体の参加を導き，空間活用のイメージやコンセプトなどの共同検討を促し，目指すべき共通の目標像であるヴィジョンの形成に寄与することを明らかにした．

ヴィジョンを広く市民と共有し，共感を得ながら，その計画設計の具体化を進めるためには，屋内での協議会形式による検討ではなく，多主体によるまちづくりの取り組みを風景化し，広く一般市民らが参加する空間の共同体験と質的評価の重要性を示した．ヴィジョンの成熟過程の分析結果により，計画手法として，特に長期にわたる交通/利活用社会実験を実施し，複数の交通計画案の試行や空間設計の洗練を重ねることで，交通の利便性や安全性に関するシステムチェックの域を超えて，道路利用者の意識・態度の変容とデザインの高質化に結びつくことを明らかにした．

2）ヴィジョンの実現を上位の目標に置いた計画・設計の調整

道路を機能転換し，歩行者中心の空間再編を行う場合，必要な車両のアクセス性や交通安全性を確保しながら，人々の多様な活動のニーズに応える豊かな滞留空間や歩行空間などの場所性を実現する必要があるが，これらの考え方は一般的にトレードオフの関係にある．空間再編の実現のための技術的検討や関係主体の意見内容の分析より，このトレードオフ関係の調整において，協議の段階・熟度に応じた適切な計画・設計条件を設定し，ヴィジョン実現の観点から質的な検証・評価を行い，計画案のアップデートを重ねることが，場所性を高める空間再編の計画の合意形成に大きく寄与することを明らかにした．

上記の通り本論文は，近年の都市空間再編において重要性が高まっている，多主体共創のヴィジョンを要としたバックキャスト型の計画調整と合意形成の方法論を明らかにした．膨大な行政資料の精緻な分析に基づいて困難な現象の解明を行ない，これまでの課題解決型の計画手法とは異なる，都市空間の質的転換をもたらす新しいデザイン・プロセスのモデルを示した本研究は，都市デザイン分野の学術および実践上、高く評価することができる．したがって，本論文は博士(工学)の学位論文として価値あるものと認める．また令和６年２月２０日，論文内容とそれに関連した事項について試問を行って，申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し，合格と認めた．